

令和4年度 魚津市総合教育会議 議事録

令和4年11月1日(火)

16:15~17:15

魚津市役所第1会議室

【出席者】市長 村椿 晃
教育長 山瀬 敬
教育委員 伊東 潤一郎、山浦 春美、片山 さゆり、松本 修治
事務局 企画部長、教育委員会事務局長、教育委員会事務局参事、教育総務課長
生涯学習・スポーツ課長、教育総務課長代理、学校教育係長
企画政策課長、企画係長

【議事録】

事務局 (企画政策課長)	予定の時間となりましたので、ただ今から令和4年度魚津市総合教育会議を開催いたします。開催にあたり、魚津市長 村椿晃がご挨拶申し上げます。
市長	<p>本日は総合教育会議ということで、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>先週の26日の水曜日に東京帝国ホテルで日本港湾協会百周年記念式典に出ました。その時に特別公演をしたのは国立西洋美術館の元館長、元文化庁長官の青柳正規さんです。この方は自分が県庁時代に立山黒部を世界文化遺産にしようという仕事をしていましたが、その座長としてお呼びした人だったので面識があるのですが、その方のお話が面白かったので紹介します。</p> <p>今、日本は円安とかGDP、一人当たりのGDPとかが先進国の中で非常に低下をして、国力が衰えているのか、非常にその悲観的な話が多くて元気が出ないわけだけれど、もう10年ほど前になるのですが、国連大学がある指標を発表しています。IWI（インクルーシブウェルスインデックス）ですが、中身は何かというと3つのカテゴリーで、その国の持続可能性を判断するというものです。1つはインフラ、もう1つは人的資源、もう1つは自然です。日本語で言うと、包括的富指標、包括的な富の指標という意味なのですが、日本はその評価で行くと世界第二位だそうです。それは今もです。何が一番この内で、日本の評価が高いかというと人的資源だそうです。人です。その人の資源を図る評価というのが非常に面白くて、別に学校の論文数があるとか、そういう話だけではなくて、例えば礼節を弁えている国民性であるとか、そのようなものも含まれているそうです。</p> <p>青柳先生は何を言いたかったのかというと、日本は昔から資源はもちろんなくて、高度成長期においても、結局はその人のパワー、人の働きでもって世界的な成長に寄与してきたわけなので、これからも日本のその誇りある地位を維持するのは、先ほどの3つの指標の中の人的資源であり、そこを高めていくこと、これに尽きるだろうということ。教育が大切100年の計だと言うことは昔から言われているけれども、要はそういうことだということを力説されていました。そのとおりだと思いました。その話の背景には、日本は教育、あるいは人に割く予算が非常に少ないということがデータとしてあるわけ</p>

	<p>です。そういったところをもう一回見つめ直して、国としても、あるいは経済界としても考えていくべきだと。まだ悲観的になる必要はない。と、そのような話をおっしゃっていたのでぜひ紹介をしたかった。</p> <p>魚津においても人口が減っていく中で教育環境が変わっていきますけど、今求められているのは、設計図のない誰も歩いていない道を自分で切り開いていけるような人材をどう育てていくのか、どうアプローチするのかだと思っています。本日の会議はそういった意味で正解はありませんが、これから時代の学校教育、社会教育を進めていくためにはどう考えていいかを皆さんと話し合いながら、市の教育施策に活かして行きたいという思いです。今日はよろしくお願ひします。</p>
事務局 (企画政策課長)	それでは議事に入ります。ここからの議事の進行は、市長にお願いします。
市長	まずは資料がありますので事務局から協議材料としての説明をし、皆様からの意見をお伺いしたいと思います。
事務局 (教委総務課長)	<p>これからの魚津市における教育のあり方について話題提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの視点 <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位の高い、解決すべき課題（課題認識） ・課題を解決する方法（先進事例） ・意見交換、議論の方法（手法） ・目指す教育の将来像や重点項目（目標、方向性） ○魚津市教育振興基本計画の説明と（仮称）教育のあり方検討会について ○現状、推計などの一部を紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・学校規模について ・小中学生、未就学児の人口推計について ・市内高校の定員について ・ふるさと教育について ○不登校の人数
市長	事務局から話題提供がいくつかありました。子供の数とか学校再編の話ということもありますですが、本日は子供達の教育の内容ですとか、どういう考え方でどんな展開をしていけば良いのかということを議論して行きたいと思っています。個人的には両面があると思うのですが、ふるさと教育のように自分達のことをしっかりと学ぶことと、対外的な、外との接し方みたいなものに強い、積極的に展開できるようになればいいのかということ。そういったことが結果としては不登校とかといったところにも少し影響してくるのかなと思っているのですが、そういった視点で、いろいろご意見、あるいは来年度など近いところでこんな取組をしてみたらどうかという提案を含めて、何か意見をいただけますととても助かります、宜しくお願ひします。
伊東委員	まず統合の話ですが、最初はいろいろ言われていましたが、他市の統合の話を聞いて

	<p>いたら、魚津市については何も難しいことはないと感じました。解決すべき課題は他市に比べると難しいレベルではないということを市長から説明し、皆さんに理解していただき、統合を進めていただきたい。</p> <p>コロナ禍の状況で考えたが、学校で教えていただかなければいけないのは、学力と言われるものと、それと人間力と言われるものの2つの柱だと思います。その中で人間力の教育をどうやっていくかということを中心において教育を考えていくということが必要です。学力は知恵と知識という二つの言葉に分けているのですが、知識とは何かを覚えて学ぶ力ですよね、それに対して知恵というのは、問題があったときにそれを解決しようとしていこうとする考え方。もっと知恵の教育にシフトして行く必要性があると思います。だから、人間力と知恵の教育をどうしていくかを考えることが大切だと思います。</p> <p>また、ふるさと教育について、教える事は良いことですし魚津の未来を創る子供にしていかなければならぬということもあります、例えば、自分が一人でホームステイに行かせてもらった際に、自分の街のことを何も言えなかつたという経験をしています。「自分の街のことを話してください、あなたの街ってどんな街ですか」と聞かれた時に話できなかつたことは、本当に恥ずかしいと思いました。外国の子供達は自分の街のことをちゃんと言えました。どんな小さな街でも「自分の街にはこんなものがある」とか、「こんな素敵なかつだよ」「だからぜひ1回来てください」と言えるのですが、自分は言えなかつた。そういう能力がなかつた。それは、そういう力を付けていくための教育になってなかつたということ。教えるということではなく、自分で調べてプレゼンテーションをして、自分達で理解して行くという力をつけていくやり方に変えていくと、もっと違つたものが出てくると思う。また、それをやっていくことにより、街を理解して、街の良いところを理解して行くことになります。</p> <p>加えて、人間力とか知恵を与えたいたいのであれば、中学生が小学生を教えるような方法もあると思います。ある会社の話ですが、係長の昇格試験で論文を書かせ、その論文の採点が部長職の昇格試験の試験課題となっていました。部長が1つ1つのレポートを見て評価をしていく方法方です。1つの何かの道具を育てるためのツールとして使うようなやり方と一緒に思います。そういう考え方で知恵の教育と人間力の教育をやっていけば良いと思います。</p>
山浦委員	<p>人口減少の話がありますが、私は、なんとかできる部分なんじやないかなと思います。義務教育を受けた子供達が、高校で市外へ行ったり県外行ったり、大学で都会に行ったりして、その後都会でずっと過ごすのか、魚津に戻ってくるか。明らかに魚津に戻ってきてくれば、そこで家庭を持ち、子供が増えていくのですが、では魚津がどういう街だったら戻ろうという気になるのかを考えた時に、ただ住みやすいから、自然が良いから、水が美味しいから、そのようなことだけでは帰ってきてもうしょうがないのではないかと思います。そこで生活を築くときは、やはり仕事が離せないので、やりがいのある仕事があるまち、自分のやりたいことが魚津にあるということであれば、そこで家を建て、生活の基盤をつくり、子供も作り、という方向にもっていくべきだと考えます。ふるさと納税などで、お魚美味しいですよ、水美味しいですよと、コマーシャルをして暮らしやすいですよということは、もちろん大切なことですが、そこでやり甲斐のある</p>

	仕事を見つけられる、挑戦できるまちにしていかないかなと思います。
片山委員	<p>先の2委員が言われたとおりです。</p> <p>教育については学校の先生が一生懸命やっていらっしゃる。子供達に必要なものは受け止める心の状態だと思います。心が上向きのコップの状態。心を閉ざしていない状態。せっかく良い教育をしていただいても、それを素直に受け入れるメンタル状態にないといけない。子供達がそのような状態になるにはどのようにというは家庭環境などもあり難しいのですが、1つの指標としては挨拶があると思います。学校を訪れて全然知らない人にもすれ違うとあいさつをする学校ってありますよね、すごいな、どうやっているのだろうと思います。この挨拶すること1つに絞って魚津市の学校全体で徹底的にやってみたら、何年後かに必ず影響が出てくるのではないかと思います。もう1つは子供の周りの大人の状態。先生や親など周りの大人達。親が生き生きと会社で働いていないと子供は学校で安心して学べないし、学校の先生とは長時間一緒にいるので、勉強だけでなく先生の子供へのコーチング、教え方とか話し方とか伝え方というのが、すごく今の子供達に与える影響が大きいと思います。同じことを伝えるときも言い方によって全然受け止め方が違うと思います。教え方・伝え方は、学校の先生方はもちろん勉強されていると思いますが、魚津市はその質を上げてくことを目標として、具体的なことをやっていけば数年後に成果が出るのではないかと思う。</p> <p>子供の受け止める力、心の状態と、親達がはつらつと生きていく状態を、みんなで作っていく、それが市の教育にものすごい影響を与え、未来の魚津市が変わっていくのではないかと思います。</p>
松本委員	<p>これから魚津市の教育について考えていくときには、やはりまず魚津市で現在取り組んでいることをしっかりとやっていくことが大切です。</p> <p>日本の教育の特徴というのは、知徳体のバランスよく、また生きる力や生き抜く力、未来を拓く能力と言っていますが、知徳体をバランスよく育てている今の教育をしっかりとやって行くこと。それがいろんな外国からでも高い評価を得ていると思います。その土台となる学校ではハード面においてもソフト面においても安心安全な教育環境作りが重要です。</p> <p>ハード面では校舎とか教室環境等がありますが、ソフト面では特別支援教育とか貧困の問題とか、いじめの問題とか不登校の問題、こういった問題にどう取り組んでいくか、今も一生懸命取り組んでいますが、それをもっと周りの大人が役割分担していく必要があります。行政も教員もお父さんお母さん達も社会も全部で、一番ここをしっかりとやらないと子供達は生き生きした表情で勉強には取り組まない。子供達が嬉しそうに笑って生き生きとして活動している、それを見るだけでとても嬉しいじゃないですか。子供達にそういう状況を作っていくことがまわりの大人の責任です。そういう土台がない、学校の中で居場所がないと、子供達は決して頑張ろうという力が沸いてこないと思います。大人もそうですが自分を認めてくれる、自分の居場所があるから頑張ろうということにつながってくると思います。これから学校教育を考えていく時に、そういった土台の部分を考えることが大事になってくると思います。</p> <p>また、からの教育ということを考えたら、去年の1月にあの中教審議会で、</p>

	<p>「令和の日本型学校教育の構築を目指して」という答申が出ましたが、今の学校教育の課題や、これから目指す方向とかが本当にきれいに整理されています。そのまま魚津市の教育に当てはまる訳ではありませんが、そこに書いてあることを参考にしながら魚津市の子供の実態に合うようなことを考えていく必要があると思います。</p> <p>先ほど申し上げた、土台をしっかりとしながら、これから社会の変化のこととも考え、ICT関係の教育に力を入れていかなければいけないし、いろんな対応力を鍛えて、外国語教育にも力を入れなければならないし、地元で頑張ってもらいたいと思えばふるさと教育にも力を入れてかなければならない。社会の中で、子供達がどんな状況であれば本当の幸せなのかということを考えていく時代が来るのではないかと思っています。委員会でそういうことを考えながら、では具体的にどうしていくかを突き詰めていく必要があると思っています。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>伊東委員のおっしゃる知恵とか、人間力の話、ふるさと教育等、自分のことを知ることと伝える力はセットだと思います。そういう意味では挨拶の話も通じるところがあり、どうやってそのような力を付けていくという、人間形成の部分ですよね。それは学校だけではできないと思いますが、方法はあまり難しく考えず、例えば先ほどの挨拶のような方法を続けることにより、ある程度パターンとして認識され、それが自信を持って表現できるようになるという事もあるのではないかと思います。</p> <p>また、現在ふるさと教育関係では、表現するという分も含めて取組をしています。</p>
教育長	<p>中尾哲雄さんのご寄付で今、ふるさと教育に力を入れています。表現力ということもあります、故郷のいろいろなことを知ろうというカルタです。そういう取組を色々計画しています。</p> <p>今の子供達を見て思うのは、人との関わりがどうしても苦手になってきている。教育にも課題があるとは思うのですが、人との関わりの中で初めて色々なつながりが出てくる。ふるさと教育を一言で言うと人とのつながりではないかと思います。さらにそれをバージョンアップさせる時は、例えば、魚津市の一番基幹産業は何かというと、製造業や農業などモノを作ることです。ものづくりというのは、まさによく言われる人づくりっていうふうに言われるじゃないですか。その辺りを少し強調して取り組むことで、例えば子供達が人とのつながりの中から表現力を生むということを考えることができますかと思っています。</p> <p>最初に市長が人口、子供の数が減っているが色々なアイディアを出して、と言われましたが、実は非常に衝撃的だったのですが、2、3日前に東京都の小学校中学校の今後の数の推計が出ました。東京都でも小学生が今年度の数を 100%にすると、令和9年度の5年後には 92%になる。一年生の減少率で言うと 80%、2割減るということです。東京都でさえそのような状態なのに、富山県、魚津市が減っていくは当たり前で、減っていくことに一喜一憂するよりも、色々アイディアを出して、特に学校教育については人づくり、どう関わりを持たせていくかということを真剣に考えて行くことが 10 年後、20 年後に効果が出てくるのではないかと思います。</p>

市長	挑戦できる環境づくりや知徳体の話もありましたが、子供に対して我々ができることはあると思うので、そこを私達はあまり難しく考えのではなく、何か展開を示して取り組むことを呼びかける必要があると思います。今日すぐに答えを出せるということではありませんが、皆さんと、まず一歩やっていこうということを創り上げて、できれば新年度からでも呼びかけをすると言うことをしていければと思っています。
山浦委員	ふるさと教育に関して、よつば小学校のPTAのカルタづくりの記事が載っていました。すごく大事なことだと思います。4つの学校が一緒になったときに、自分の地域さえ知らないのに他の地域はもっと知らないので、カルタで知るためにには、その作成に地域の人も関わらないといけないし、保護者も関わらないといけない。是非他の学校でもやってほしいと思いました。PTAの活動とすれば親を巻き込むし、調べ学習に出掛ければ地域の人も巻き込まれる。そして自分達のもともとの地域と今学校の校区と、さらに魚津市全体を知っていくという子供にはすごいいいチャンスじゃないかなと思います。
市長	我々とすると、それを表現できるような舞台、そういうものもしっかりやっていければいいのかなと思います。
伊東委員	来年度、子供の成長を応援する取組に1億5千万円枠を設けるということを伺いました。 先ほど話が出たように、子供に教えようと思っても教える側のレベルがないと教えられないと思います。ふるさと教育をやろうと思っても教育をする側のレベルがあって初めて学べる機会があるということだと思います。先生の教師力を上げようすることについてはそこまで難しいとは思わないのですが、課題は親育だと思います。教育をする側全体のレベルを上げていくためにはどうしたらいいか。例えば、親が参加できる機会をもっと作るために金を使っていただくとか。 教育のための予算を使うにあたり、市役所の皆さんのが色々考えていただくのもいいですが、もっと色々な人から意見聞いてみたら、私達が思ってる以上に面白い考え方が出るのではないかと思います。また、もっとざっくばらんに話ができる機会を作っていくことが大切だと思います。
市長	ありがとうございます。ぜひそうしていきたいですね。
松本委員	子供達を見たら、この子はこの先どんな人生を送るのだろうと、ついつい思ってしまいます。 今、教員の資質というようなことを言わされましたけど、確かにその通りだと思います。子供達はそれぞれ良いところを持っているので、どこを引き出してあげるかというあたり、関わった先生によって子供の伸び具合は非常に違うし、もっと言えば将来就きたい職業まで違ってくる。例えば先生になりたいと思うか、そうじやないと思うか。周りの大人の生き方を見ながら子供達は育つと思うので、先ほど片山委員さんも言われたけども、子供たちが生き活きて活動するためには、周りの先生達、お父さん、お母さん、

	<p>地域の方々も含めてみんな生き生きして居ないと子供達はそういう状況になっていかない。だから市全体がそのような雰囲気作りをどんどん考えていく必要があるのではないかと考えます。どんな人達と関わるかによって、その子供の人生は大きく変わってくると思う。やっぱりいろんな出会いとか、機会をどんどん作っていくような環境作りというのも大事だと思います。</p>
片山委員	<p>不登校についてのグラフがありましたが、不登校は親も本人もとても苦しんだりしていると思うが、不登校はただ学校行けなくなっただけで代わりにここに行ける、家で勉強している、それでもいいよね、というような状況を認めるということに関して魚津市は進んでいるような気がします。スマイルなど受け入れ場所がある。魚津市はそういうところが強いと特化してみてはどうかと思います。「自分は不登校だったが、あまり気にせずにいた」、「自分は不登校だったが、あまり気にせずにいた」という風に育っていけるようになってほしい、普通に受け入れられるようになってほしいと思います。そのためには大人がその様に振舞う「あの子は不登校だけど普通だよ」という、一つの個性として捉えるようなことを全体に広げていかないといけないと思います。</p>
山浦委員	<p>不登校についてもう一つ。小学校が統合されて、規模が大きくなれば不登校が増えるということは想定内であり、不登校の数を今回調べてもらいました。</p> <p>自分が学校にいた頃は、なんとか学校に戻したいという思いが強かったのですが、今学校を離れて不登校側の対応をするようになってからは、行けなくてもいいのではないかと思っています。大事なのは学校の代わりに居場所があるということで、スマイルはとてもいい仕事をしています。しかしここに来てちょっと行き詰ったことがあります。それはスマイルにもつながらなかった子がいたのです。去年からスマイルでは高校の年代の子も受け入れてもらえるようになりましたが、その年代の子が学びたいと思った時に魚津市では受け入れ先がないのです。今すごく悩んでいるところです。黒部市には1つあります。みんなの家というのがあって、定年退職されたご夫婦が街なかの空き家を使ってやっておられます。中学校を卒業して高校に行けていない子で、やっぱりやり直したり、学び直したりとか学びたいというお子さんをボランティアで受け入れておられます。魚津市でも、そういう場所が必要だと思います。今からでもいいんだよ、今からでも学べるんだよという場所を作ってほしいです。</p>
市長	<p>今いくつものキーワードを頂きました。挨拶、カルタ、親育、人との関わりを増やすということ、今おっしゃったような子供達を誰一人取り残さない受け皿をどうやって作っていくかというご意見まで。</p>
教育長	<p>教育委員の皆さんから本当に貴重な意見をいただき感謝しております。</p> <p>不登校については先ほどの資料のとおり魚津市でも中々厳しい状況にあるということです。ただ、誇れることはスマイルという組織が親御さんにも子供さんにも本当に頼りにされているということです。それはスタッフの努力ですね。日々学校に行き色々連携をしています。</p> <p>一方で、いろんな考え方、いろんな生き方があるということは基本ですが、ただ魚津</p>

	<p>市教育委員会としては、なにか少しでも学校と繋がりを持って、何かの機会に例えば修学旅行だけでも、繋がりを持つ機会を少しでもしっかりと確保したい。少しずつわざかな進歩かもしれないけど、それもいいよ、という風に。それが子供のこれから的人生に非常にプラスになるのではないかと思います。そのような取組を一生懸命しております。</p> <p>また、教育のあり方検討会について、先に説明をしましたが、教育委員会では教育のあり方を今後2年間ほどの時間をかけてやりたいと考えています。やはりこういう問題を取り上げる時は、学校教員も保護者も地域の方々などたくさんの意見を聞かないといけないと思っています。どちらか言うとこれまでの審議会では結果だけを皆さんに最終的に報告するという形が多かったと思っています。これから魚津を背負う子供達の10年後、20年後を考えるときは、沢山の皆さんにも主体的に関わる仕組みを作っていくなくてはならないと考えています。そういう意味で少し時間をかけて、どういうやり方いいかということは今後検討していきますが、なるべく多くの人に主体的に関わってほしいということで、少し時間をかけて検討して行きたいと思っています。今日皆さんに今後の課題をお聞きした上で、やり方としては、小グループでいくつかの課題について検討してみてというような方法があるのかなと思っています。</p>
伊東委員	<p>話し合う場は絶対に作らないといけないし意見は全部言ってもらう。ただそれに対して100%答える必要性はなく、その中でこれがいいと思ったからこれをしますで十分だと思います。言われたことに対してすべて答えないといけないと思うと会議も開きづらくなり資料も厚くなっています。最初に全部言ってもらい、一年かけてやった後にそれを絞り込んで深めていくようなやり方がいいと思います。</p>
片山委員	<p>意見を聞く会はすごくいいと思うが、その後で必ず行動を起こしてほしいです。成果には関係なく、何か行動につなげて決まったことをやる。集まった目的をしっかりと持って、実行してほしいです。</p>
松本委員	<p>多様性というのが一つのキーワードになると思うので、いろんな方面の方々から意見をもらえばいいと思います。人数的に多いと議論も深まらないと思うので、どうしても十人程度になるのかなと思います。色々な方面の方を入れながら考えていいのではないかと思います。理論的なことや理想ばかり語っても意味がないので。</p>
山浦委員	<p>小学校、中学校だけではなく幼稚園、保育園、高校のメンバーが集まって話をする場がありません。幼稚園保育園の先生と高校の先生が一緒の会議で話をするだけでも意味があると思います。それだけで一步前進だと思います。子供の見方は年齢差がありますけど、それお互いに知り合えることが多いのではないかと思います。</p>
市長	<p>子供を中心としたすべての色々な関わりという場ですね。</p> <p>すみません、時間となりました。総合教育会議でなくとも、皆さんと意見交換できるような機会ができればと思っていますので、またぜひお願ひします。では、事務局にお返しします。</p>

事務局 (企画政策課長)	<p>皆様どうもありがとうございました。 それではこれで本日の会議を終わります。皆さんもどうぞ疲れ様でした。どうもありがとうございました。</p>
	17時15分終了